

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づいてグループホームとしての理念がある。職員は念頭に置いて実践する努力をしている。	「個人の尊厳を大切に…」というホーム独自の理念については事務所内に掲示し共有と実践に繋げている。また、月1回のスタッフ会議の中で実践状況を話し合い、「日々の支援が馴れ合いにならないよう話し合っている。ベテラン職員が多く理念の持つ意味を良く理解して利用者に寄り添い日々の支援に当たっている。家族に対しては利用契約時に理念に沿った取り組みについて説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の運動会に招待されて見学に行った(5/27)。敬老会でボランティアに来て頂き、催し物を行った(9/24)	開設以来自治会費を納め、地域に関われ親しまれるグループホームとして活動している。新型コロナが続き、地域行事も自粛気味であるが近隣住民の方とは親しく日々の付き合いをしている。そうした中、小学校の運動会に招待を受け、子ども達との交流のひと時を楽しんだという。また、地域の中学生のボランティア委員会がペットボトルや空き缶拾いで得た資金で当ホームに「加湿器」をプレゼントしてくれ、ホームとして感謝している。更に、敬老会には「踊り」や「歌」のボランティアが来訪し、出し物を披露していただき利用者も楽しめたという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方(独居高齢者)の依頼があり、落ち葉拾いや掃除を行っている。害虫駆除も行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R5年5/29から対面集合形式で運営推進会議を行っている。近況報告と研修内容も説明して、意見や助言を頂いている。	コロナ禍が長引き書面での会議開催が続いていたが、5月8日の5類への移行を受け、5月度より対面での会議が再開された。家族代表、民生児童委員、地区代表、市高齢者介護課職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回、奇数月に開催している。利用者の動向と現状の報告、活動報告、職員活動報告、身体拘束・虐待防止等の研修報告などの後で意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。今後は地域包括支援センター職員の参加も願っている予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	上田市高齢者介護課支援担当者に運営推進委員のメンバーになって頂いている。サービス向上を目指して、相談や助言を頂いている。	市高齢者介護課には事故・ヒヤリハット報告等、必要に応じて連携を取っている。8月には高齢者施設の交流会が行われ、「コロナの感染対策」「人材育成」等、市の介護相談員も加わってグループ討議を行い、運営面の向上に役立っている。市の介護相談員の来訪も再開され、3ヶ月に1回、2名の相談員が来訪して利用者と交流し、気づいた事柄は口頭で報告している。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し、職員が対応している。	

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員を中心として身体拘束について研修を行っている。(年2回)資料を用いて職員同士でケアに対しての検討を行い、身体拘束をしない方法を考えている。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。ホームの周りは坂が多いことから玄関は安全確保のため施錠している。昼食後、昼寝の時間になると寂しくなり帰宅願望が強くなる利用者がいる、寂しくならないよう職員が付き添い話をして対応している。夜間の転倒・転落防止のため家族と相談して夜間のみ人感センサーを使用している方がいる。また、職員はホーム内を定期的に見回することで安全確保に繋げている。月1回のスタッフ会議の中で拘束についての研修会を行い意識を高め、支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員を中心として高齢者虐待防止について研修を行っている。(年2回)職員は自らの行動を振り返りながら、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている利用者があり、制度について職員間で話す機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書の書面を用いて丁寧に説明をしている。ご家族には納得して頂き、不安のないように対応している。質問事項もその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員が来園して利用者と懇談されている。(5/19と8/23と11/15)。利用者からは常に意見を頂いている。家族へは毎月、手紙と写真を送っている。いつでもご意見を頂けるようにしている。	家族の面会はコロナ蔓延時には窓越し面会を行っていたが、現在は居室にて短時間の面会を行っていることから週1回見える家族がいる。また、家族が併設のデイサービスを利用している方がおり、デイサービス利用毎の面会を楽しみにしている。月1回行われる行事や外出、誕生日会等の様子を小まめに写真に残しており、毎月の管理者からの手紙に写真を添えて家族に届け、喜ばれている。合わせて面会時や電話できめ細かく家族との連携を図るようにしている。新型コロナの状況も落ち着いてきており、状況を見ながら外出レクリエーションや敬老会等に家族をお誘いしたいとの意向を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見や提案を聞き、健全な運営に反映する努力をしている。	月1回月末の木曜日に全職員参加でスタッフ会議を開いている。利用者一人ひとりの対応について、事故・ヒヤリハットの検討、身体拘束の勉強会、連絡事項、意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。法人として人事考課制度があり、職員は年度目標を立て、半年に1回それに対する自己評価を行い、管理者による個人面談が行われモチベーションアップに繋げている。また、年1回職員対象にストレスチェックが行われメンタルヘルスにも取り組んでいる。	

グループホームにしようち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各々に役割分担があり責任を持って遂行してもらっている。希望者には資格取得に向けた支援をしている。職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	R5年8月より【認知症実践者研修】に1名が受講した。課題に対して職員全員で考えて取り組んだ。経験豊富な職員は、他の職員に助言をして人材育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他のグループホームとオンライン会議を行い、情報交換をしている。上田地域広域連合主催の介護施設職員交流会があり、参加して意見交換をおこなった(8/10)。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にご本人の意見をお聞きし、訴えや希望をその方に合ったサービスに反映出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望をお聞きして、初期の段階から安心して頂けるように努めている。信頼して頂ける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階ではまず本人と家族の話をよく聞いている。その時に必要な支援を決定して対応している。職員間での情報を共有して、随時ケアを見直している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に寄り添い、傾聴、受容、共感の姿勢をとっている。利用者に安心して頂ける関係を築けるように努力をしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には利用者の様子について、手紙と写真を毎月送付している。変化時はその都度報告しており、対応について意見をお聞きしている。面会は希望時に対応している。		

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親戚、友人などが来園されて、面会している。一時帰宅も行い、家族との大切な時間を作っている。	家族と一緒に友人、知人の方が面会に見えられ利用者でと飲談されている。また、併設のデイサービス利用者で知り合いの方も面会に見えている。日用品等欲しい物については家族に連絡して届けていただいたり職員が代わりに買い物をしたりしている。理美容については2ヶ月に1回、顔馴染みの訪問美容師が来訪し話を楽しみながらカットしてくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方が自由に交流出来るように、席の配置に配慮している。利用者にとって居心地の良い場所を作り、生活が楽しめる環境作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応している。住み替え等でグループホーム契約終了時には、利用者と家族へのフォローをして必要な情報を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを汲み取れるように日々関わり、お話を聞いている。ご本人の意向に沿ったケアを心掛けている。困難な場合は、ご本人の目線に立って、より良い支援が出来るように努力している。	殆どの利用者が自分の思いを伝えられる状況であるが、意思表示が難しい方がおり気持ちを落ち着かせるように寄り添い、好きな食事等を提案して対応している。また、殆どの方は耳が不自由な状態にあるので耳元でハッキリ、ゆっくり話をして希望を受け止めるようにしている。そうした中、気づいた言動等は連絡ノートに纏めて情報を共有し、更に、申し送り時に確認して利用者の意向に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族の話をお聞きしている。フェイスシートや関係者などから情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士で、日々情報交換をしている。連絡ノートがあり、必ず目を通している。体調の変化時はすぐ対応出来るようにしている。日々利用者の状態を観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心として、本人、家族、関係者の希望や意見を反映した計画を作成している。定期的に職員からも意見や提案を聞いている。	職員は2名の利用者を担当し、居室管理、足りない物の補充、誕生日会の準備等を行っている。担当職員が日々の状況を把握し、3ヶ月に1回モニタリングを行い、それを基にカンファレンスで話し合い、家族の意向も来訪時等に聞き加味しながらケアマネジャーがプラン作成を行っている。入居時は暫定で2ヶ月のプランを作成し、また、様子を見ながら短期目標を6ヶ月として状態が安定している場合は1年での見直しとしている。状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、一人ひとりに合った支援に繋げている。	

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の様子を個人記録に残している。職員は必ず目を通して日々の支援に繋げている。細かい事を送る連絡ノートがあり、よりキメ細かい対応をしていく仕組みがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望には可能な限り対応している。利用者1人1人のニーズに合った支援を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会ではボランティアによる催し物で、利用者には楽しんで頂いた。地域資源を活かして今後も暮らしを楽しめるような取り組みをしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望されるかかりつけ医となっている。各医療機関からの情報は個人の記録と共に保管して、職員間で共有している。	入所時に家族の希望も聞き、ホームとしての医療方針について説明している。現在、全利用者がホーム協力医の月1回の往診に対応している。また、月3回契約の訪問看護師の来訪があり、利用者の健康管理と医師との連携を図り、24時間オンコール対応が可能となっている。歯科については必要に応じてかかりつけ医への受診対応で家族がお連れしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用している。職員は利用者の状態を観察し必要に応じて相談して、変化時は迅速に対応出来る様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	9月に2名の利用者が体調悪化で速やかに入院となった。病院と十分に情報交換をして、早期に退院となった。(1週間) 4月転倒骨折で入院その後退居となる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した方が家族の希望で自然な形でのグループホームでの看取りとなった。看取りケアプランを作成して、家族と職員で共有した。主治医、訪問看護と連携をして、家族の希望に添えるようにした。(R5年の4月逝去)	重度化、終末期に対する指針があり、利用契約時に説明して同意を頂いている。入浴や食事を摂ることが難しい状況となり終末期を迎えた時には家族、医師、訪問看護師、ホーム職員で話し合いの機会を設け、家族の意向を確認の上、医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂き、医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。この1年以内に1名の方の看取りを行い、コロナ禍であったが家族には居室で最期の時を共に過ごしてただけ感謝の言葉を頂いている。最期は利用者の好きであった「着物」に着替えていただきお見送りをしたという。年1回、看取り研修会を行い、看取り後はケアマネジャー中心に振り返りの機会を設け、次回に繋げるようにしている。	

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には初期対応が出来る様に勉強している。対応マニュアルを用意している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	R4年・5年と実際の避難はなかった。避難訓練・消火訓練は行っている。	併設のデイサービスと合同で年2回防災訓練を実施している。7月には土砂災害を想定し、利用者と職員全員がヘルメットをかぶって外へ移動しての避難訓練と水消火器を用いた消火訓練を行った。12月にはデイサービスからの出火を想定した消火訓練、通報訓練、避難訓練を予定している。また、職員の緊急連絡網の確認訓練は定期的に行うように予定を立てている。備蓄として、「水」「食料品」「ガスコンロ」「石油ストーブ」等が整備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	集団生活においてプライバシーが厳守されているとは言えない所もあるが1人1人の人格を尊重した対応(言葉遣いや行動)をするように努めている。	日々の生活を楽しく過ごしていただくように取り組んでいる。接し方には特に配慮をして馴れ合いにならないようにし、言葉遣いも親しみ易い言葉も交えながら命令口調にならないよう気を付けている。また、一人ひとりの落ち着ける場所を見つけて居心地の良い環境づくりにも取り組んでいる。合わせて食事作りや洗濯のお手伝い等、利用者が活躍する場を作り、生き生きとした時間を持てるように働きかけている。呼び掛けは希望に合わせて苗字か名前を「さん」付けでお呼びし、入室の際には「ノック」と「入ります」との声掛けをするよう徹底している。スタッフ会議の中でプライバシー保護についての勉強会を行い意識を高め、支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で本人の希望を引き出せる様なアプローチをしている。本人が選択が出来る様な工夫を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて職員は動くようにしている。利用者が何をしたいのか、日々の生活から観察をして、本人の希望を引き出す様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装についてはご本人の希望や好みに沿って提供している。散髪は2ヶ月毎に1回理髪店が来園して対応している。(本人の好みを聞きながらカットする)		

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1～2回食事企画を行い、季節を感じて頂けるメニューを提供している。利用者の希望も取り入れている。料理の下ごしらえから片付けまで利用者と一緒にやっている。	自力で摂取できる方が大半で、全介助の方が若干名という状況である。献立は法人の管理栄養士が立てた季節感も加味された献立を職員が調理してお出ししている。利用者のお手伝いは野菜の下処理等、力量に合わせて参加していただいている。月1回、利用者と一緒に食事作りを楽しめるようにしている。お彼岸には「ぼた餅」「餃子」、6月には「白玉あんみつ」「冷やし中華」、夏には「流しソーメン」「かき氷」、12月には「ちゃんこ鍋」、クリスマスには「デコレーションケーキ作り」等、季節感を味わっている。外出の際には持ち帰り弁当専門店のお弁当を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立になっている。量や水分も計測して記録している。1人1人の運動量に合わせて提供している。食事形態にも配慮して食べやすいように工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を学んでいる。食後は必ず口腔ケアを行っている。声掛け見守りを行い、支援の必要な方には対応して口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握できる様にチェック表を用いている。必要に応じて誘導している。パッド等は個々にあった物を検討使用して経済的になるように配慮している。(日中と夜間の使い分けなど)	自立している方と全介助の方がそれぞれ若干名、一部介助の方が三分の二という状況である。職員は利用者一人ひとりのパターンを把握しており、定時の誘導をするとともに、排泄表を参考に状況を見ながら早めに声掛けを行ってトイレでの排泄に繋げている。排便については排便チェック表を参考に2日間ない場合コントロールを行い、「ゴボウ茶」「ほうじ茶」「スポーツドリンク」等で1日1,000cc以上の水分摂取に取り組みスムーズな排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない様に食事、水分、運動など出来る事を行っている。個々の排便パターンもチェックしている。下剤、整腸剤は訪問看護師と医師に相談して処方して頂いている。排便コントロールを行っている。毎朝、ごぼう茶を飲んで頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表に沿って実施しているが、利用者の状況によって柔軟な対応をしている。入浴時間など利用者の希望に沿って対応している。	天然温泉かけ流しの浴室で気持ちの良く入浴している。基本的には週2回行っているが、全利用者が何らかの介助を必要としている。入浴拒否の方もいるが、誘い方に工夫をして入浴していただいている。また、入浴後は清潔な服に着替えていただき、スポーツドリンク等を飲んでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のリズムに合わせた対応をしている。個室でゆっくり休めるよう環境整備している。(寝具や室内温度等)日中は運動や散歩も取り入れて夜間は安眠出来る様に努めている。		

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳と薬の詳細ファイルがあり、職員は内容を把握している。状況の変化がある場合は医療と直ぐに連携をとっている。記録にも残して情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の嗜好に合わせたレクリエーション(塗り絵・歌・パズル・本)など提供している。生活の中で職員と一緒に家事も行っている。個々の得意な分野で活躍出来る場を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられる様な外出をしている。花や景色を見に行くドライブをしている。家族対応で自宅に一時帰宅した方もいる。	外出時、手引きと歩行器使用の方が半数弱、車いす使用の方が半数強となっている。天気の良い日にはホームの周りを散歩している。また、毎日の日課として施設内の廊下に明示したメートル表示に合わせ歩いた距離を確認し体力維持に繋げている。また、5月8日の5類への移行を受け、夏場の熱い時を避け月1回は季節に合わせた外出を楽しんでいる。4月は近隣の武家屋敷跡での「花見」、6月は「バラ園」、8月は猛暑で外出が難しくホームの前で「花火大会」を楽しみ、10月は丸子の「ワイン工場」、11月は「銀杏」等、季節に合わせた外出レクリエーションを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をしている利用者はいない。日常生活で必要な物については家族や職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればお貸しする。今のところ希望は無い。折に触れて親戚から手紙が届く方がおり、職員がお手伝いしながらお返事を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が快適に暮らせる環境作りをしている。利用者が作成した季節の装飾品や行事の写真などを飾っている。季節の花も置いている。トイレ、居室など場所が分かりやすいように張り紙なども工夫をしている。	1日の大半を過ごすホール兼食堂はキッチンや事務所から見渡せる造りとなっており、所在確認が容易にできる。ホール正面には秋の紅葉をイメージした大きな貼り絵作品が飾られ、また、廊下の壁には毎月行われる行事や外出の様子を写した写真が壁一面に飾られ、活動の様子が窺える。ホーム内の随所にソファが置かれ、利用者一人ひとりの寛ぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に居心地の良い場所がある。そこで寛げる様に提供している。(寛げるソファなど)席の配置についても考慮して快適に過ごしてもらえる場所作りをしている。		

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地良い居室作りに努めている。好きな物に囲まれて安心して過ごせる環境作りをしている。(好きな動物・家族の写真・手紙など)	掃除が行き届いた居室には大きなクローゼットが設置されている。家族と相談の上、イス、テーブル、テレビ等が持ち込まれて暮らし易いようにレイアウトされている。家族の写真や職員から贈られた誕生日や敬老会のお祝いカード、好きな人形等に囲まれ思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が分かりやすい表示をしている。園内はバリアフリーで廊下には手摺りがある。それぞれの居室前には見やすい表示(利用者の目線)して、分かる工夫をしている。利用者の残存機能を活かせる環境作りに努めている。		